

『朝日』『読売』における 「中国コロナ報道」フレーム

—新型コロナウイルス感染症(COVID-19)報道を対象として—

WANG Yuqing

本研究では、日本の『朝日新聞』と『読売新聞』を研究対象として、「中国の新型コロナ」に関する社説記事のテキスト分析を行い、新聞の報道フレームを明らかにした。具体的には、『朝日新聞』の「聞蔵 II ビジュアル」と『読売新聞』の「ヨミダス歴史館」などのオンラインデータベースを使用し、2020 年から 2023 年 12 月までの期間における「中国・新型コロナウイルス」と「中国・コロナ」の単語を検索し、朝日新聞や読売新聞(全国版)の全ての社説を収集した。得られたデータを KH Coder を用いて分析し、新聞の報道特徴の全体像を把握した。その後、2 つの新聞社の社説内容を精読し、分析結果を当時の社会的な文脈に還元することで、「中国の新型コロナ」に関する報道フレームを明らかにした。

第一章では、論文の概要を研究背景、目的、先行研究、分析対象、研究方法に分けて説明した。第二章では、世界および中国の新型コロナウイルスの感染、経済、政策状況を整理し、その事件の経緯を 4 年間にわたって説明した。同時に、今まで約 4 年間の中で、世界および中国の経済や社会の状況の変遷、そして各国の感染症に対する政策の変遷を解明した。第三章では、KH Coder を用いて、二紙の報道件数の変化や頻出語、共起ネットワークを整理し、「中国の新型コロナ」に関する記事の全体像を把握した。

二紙の報道件数の変化推移から、2020 年から 2021 年までの報道数量が一番多いことが分かった。2019 年末に、新型コロナウイルス感染症が中国湖北省武漢市で新たなウイルスとして発生すると、日本のメディアは発生地である武漢の感染状況を報じ、コロナに関する感染状況として中国に注目した。しかし、2021 年から「中国の新型コロナ」に関する報道が減少し続けている傾向が見られ、日本のメディアが「中国の新型コロナ」への注目が相対的に低下したと考えられる。

KH Coder の分析結果から、抽出した上位 50 位以内の頻出語を分析すると、「中国(1 位)」「感染(両紙ともに 2 位)」「コロナ(朝日 3 位;読売 4 位)」「経済(朝日 4 位;読売 3 位)」、「世界(朝日

5 位;読売 6 位)」「国際(朝日 8 位;読売 5)」、「政府(朝日 6 位;読売 11 位)」「対策(朝日 11 位;読売 15 位)」「情報(朝日 12 位;読売 20 位)」「政権(朝日 13 位;読売 13 位)」といった単語が注目された。また、二紙の頻出語の品詞に絞ってみたところ、名詞は、二紙とも、「コロナ」、「経済」、「国際」、「政権」などの言葉が最も多かった。サ変名詞については、「感染」、「対策」、「批判」などといった言葉が上位になっていた。形容動詞については、「自由」、「安全」、「深刻」「必要」など同じ言葉が二紙の間で現れていた。これらの単語から、日本の新聞が「中国の新型コロナ」に関する記事をめぐり、感染や経済状況を議論していた回数が多く、国際社会の動向について注目を向けていたことが分かる。そして、日本の新聞が中国政府の新型コロナウイルス感染症に関する政策動向を報道していたことが分かる。さらに、二紙の共起ネットワークの上位 80 の共起関係の分析結果から見ると、朝日新聞は中国の新型コロナウイルス感染症を報道する際に、経済問題や国際社会の政治などを中心に議論されていたことが見られた。読売新聞の社説の共起ネットワークを分析すると、主に中国の新型コロナウイルス感染症に関する状況、対策、国際的な影響を主要なトピックとして取り上げていることが推測された。

第四章では、二紙の社説記事の質的分析を行った。ここでは、前の第二章の事実記述や第三章の分析結果を踏まえて、二紙の「中国の新型コロナ」に関する社説を 4 年ごとに分け、新聞紙面に見られる報道姿勢を明らかにすることができた。『朝日新聞』と『読売新聞』の 2 紙は、「中国の新型コロナ」に関する社説の報道フレームの分析に関して、国際協力という観点から「中国の新型コロナ」に関することを報道したことが見られた。両紙ともに、中国政府が自身の政権の体制を改善し、同時に国際協力することを望んでいた。

本稿で取り上げた『朝日新聞』と『読売新聞』の両紙は、経済、国際社会、外交、対策など様々な視点から「中国の新型コロナ」に関する社説記事を報道した。これまでの研究では、日本の新聞を主要な研究対象としたが、「中国の新型コロナ」に関する記事をめぐる研究が十分ではないと認識した。そこで、本研究では、『朝日新聞』、『読売新聞』の二紙を分析対象として、「中国の新型コロナ」に関する社説に焦点を絞り、徹底的な分析を行った。これにより、2020 年から 2023 年 12 月までに日本のメディアが「中国の新型コロナ」に関する記事に関してどのように報道しているのか傾向を詳細に見ていく。しかしながら、他の日本の新聞における「中国の新型コロナ」に関する見解を分析することはできなかった。また、社説だけを対象にしたため、より詳細で包括的な内容の分析が難しかったと言える。この点において、まだ不足部分が存在すると考えられる。